

循環器病研究委託 17 公-3 分担研究 実践的ガイドライン作成に関する研究  
ASIST 実践的ガイドライン作成委員会

平成 17 年度第 2 回会議 議事録

日時：平成 17 年 12 月 18 日 10：30～15：00

場所：東京駅八重洲北口ロビーホール

出席者（順不同）：興梠、佐々木、山田、永金、井田、宇都宮、新井、柴田、傳法、野川、山下、古井、酒向、橋川、奥、平井、北島、渡辺

1. 審議に先立ち策定協力者の確認を行った。
2. グループ毎に進捗状況を報告し、それについて議論した。述べられた意見としては以下の通り。
  - 単純 CT の撮影法、読影法：
    - ① 撮影法、読影法については、前田、渡辺が、評価法については柴田が担当することとなった。
    - ② DWI との比較の論文が多いが、このガイドラインでは単純 CT についてのみ記述することとなった。
    - ③ 領域判定について定量的指標の導入の希望があった。
    - ④ Early CT sign の明確な定義の確立
  - MR (DWI,FLAIR,T2WI) の撮影法、読影法：
    - ① 現在各論文の撮像法を検討中であるが、詳細な撮像法を記載していない論文が多いことが報告された。
    - ② tPA の投与を前提とした時の画像検査の標準化を目指すためには出血巢の描出を目的とした画像の検討(T2\*強調画像) も必要と思われこれを行う。
    - ③ この場合 T2\*強調画像を推奨するのではなく「T2\*強調画像を撮像する場合は各各云々の方法で行う」といった記載にとどめる。
    - ④ Stroke protocol は施設により内容がまちまちであり、その統一を計ることは困難だと想定される。従ってこの部分には言及しない。
  - MRA の撮像法、表示法、読影法：
    - ① 頸部については、方法論にとどめ、CEA の治療適応などについては言及しないこととした。
    - ② 表示法・読影法などについては脳ドック学会のガイドラインを参照する。
  - CTA の撮像法、表示法、読影法：
    - ① MRA と同様頸部については方法論にとどめる。
    - ② CTA と CTP の併用法に関しては CT 灌流画像のガイドラインで省かれる予定のため、CTA の項で記述する。
  - CT,MR 灌流画像：CT 灌流画像ガイドラインの改訂版を提示し、今回の実践的ガイドラインのひな型として参照することとした。
  - Xe-CT の撮像法、解析法、評価法：
    - ① 国内の各施設での撮影法の調査報告があり、かなりのばらつきがあることが示された。

- ② 被曝低減を含め、標準的な検査法をガイドラインで示す方針。撮像回数を必要最小限に推奨する。
- ③ 解析法についても、標準化を目指す。
- SPECT の撮像法、解析法、評価法：
  - ① 方法論はほぼ確立されている。
  - ② 各種の違いについて明記する。急性期には HMPAO が推奨。
  - ③ 解析法については統計的表示法などについても言及する。
- 急性期脳梗塞における超音波検査：
  - ① 作成協力者に木村先生（川崎医大）が参加。
  - ② 頸部血管エコー、経頭蓋超音波ドップラー法、経頭蓋カラードップラー法を取り上げる。
  - ③ 頭蓋内外動脈狭窄・閉塞に関する診断基準をまとめる事を主題とする。
  - ④ 上記に関する慢性期症例を対象とした文献も検索、収集する。
  - ⑤ 微小栓子シグナル, 超音波灌流画像, 側副血行などの評価まで含めるかは, 私たちのグループ内で検討する。
  - ⑥ 血管反応性は取り扱わない

### 3. 全体の議論の中で以下を確認した。

- ガイドラインの内容としては、急性期（発症 6 – 8 時間以内）を対象とする。
- 方法論などの文献に関しては、急性期に限局しない。
- 10 月に認可されたアルテプラゼの治療指針を考慮し、それと矛盾しない内容とする。
- 各検査の標準的な検査法・評価法を示すことを目的とし、各検査の選択については言及しない。
- 検査法についてはエビデンス（論文）が少ない、またはないこともあるので、その場合は専門家の意見として記述する。
- 井田委員より、文献収集を一括してできないかとの問い合わせがあり、佐々木班長より研究費からの支払いは可能であるので、具体的な方法論があれば検討すると回答があった。

### 4. 今後の予定

- 平成 18 年 3 月 11 日（土）午後 2 時から第 3 回会議の予定。その時まで **abstract table** の完成を目標とする。可能な限り本文の草案作成に取りかかる。
- 来年夏までに、ガイドライン草案の完成。来年度末をめどに公表・出版の予定。
- ASIST 全体会議：平成 18 年 2 月 18 日（土）経団連会館、午前 11:30 からの予定